

日興AMファンドアカデミー
ベーシック

『あらためて、分散』

今、日興アセットマネジメントが お伝えしたいこと

2009年度はかつてないほどに「売れ筋ファンド」が集中しました。魅力あるテーマやシナリオ、そして何より高い実績があるからこそ、それらのファンドは人気を集めています。

一方で、今こそ聞きなれた「分散」をあらためて見直したいと、日興アセットマネジメントは考えています。

ファンド投資では避けたい
「ひとつのシナリオ」への賭け

持っておきたいコンセプト
“メイン+トッピング”

常に意識しておきたい
3つの分散



「日興AMファンドアカデミー」とは？

nikko am
fund academy

投資信託を「つくる」会社、日興アセットマネジメントが
2008年2月にスタートした、投資教育のプラットフォーム。

弊社ファンドを取り扱われている金融機関の販売担当者の方に、
投資信託に関する研修をご提供したり、お客様向けの資料の開発
などを通して、多くの方に投資信託の本質を知っていただき、より高い
理解と納得のもと購入していただくための活動を展開しています。

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

ファンド投資では避けた 「ひとつのシナリオ」への賭け

Nikko AM Fund Academy Basic

1 「分散効果は死んだ」のか？

金融危機時には、安定的と見られていたバランス型のファンドも下がってしまい、「分散投資はもはや効果がない」という声も聞こえました。

しかし下表のように、従来「どれかが下がっても、どれかが上がってくれた」マーケットが、ほぼ総崩れになった極めて特殊な時期が、あの頃だったともいえます。バランス型のファンドが、債券よりも大きく下落した株式やREITを組入れていたことも要因でした。

日興アセットマネジメントは今、2009年の1年間を経て再び『分散投資が意味を持つ』マーケットになってきたと考えています。同時に、株式やREITなどを幅広くカバーしていないと、次の主役を逃すだけでなく、逆に「ひとつに賭けているリスク」に直面する可能性もあると考えています。

■ 最近5年間の四半期騰落率

※海外資産については為替も加味して(円高によるマイナスも含まれて)います。

		日本 株式	海外 株式	新興国 株式	日本 国債	海外 債券	新興国 債券	世界 REIT	すべて に分散
2005年	1月～3月	3%	3%	6%	1%	2%	3%	-3%	2%
	4月～6月	-0.4%	5%	8%	1%	3%	11%	14%	6%
	7月～9月	20%	8%	21%	-1%	2%	6%	5%	9%
	10月～12月	17%	6%	11%	0.2%	3%	6%	4%	7%
2006年	1月～3月	5%	7%	12%	-1%	-0.1%	2%	11%	5%
	4月～6月	-8%	-2%	-7%	-0.5%	0.1%	-5%	-4%	-4%
	7月～9月	1%	8%	8%	2%	6%	10%	12%	7%
	10月～12月	4%	10%	19%	0.3%	4%	5%	12%	8%
2007年	1月～3月	2%	2%	2%	1%	0.1%	2%	4%	2%
	4月～6月	4%	12%	20%	-1%	4%	3%	-3%	6%
	7月～9月	-9%	-4%	7%	2%	-1%	-4%	-6%	-2%
	10月～12月	-9%	-5%	1%	1%	1%	-0.2%	-15%	-4%
2008年	1月～3月	-18%	-19%	-21%	1%	-4%	-11%	-13%	-12%
	4月～6月	9%	4%	5%	-1%	3%	5%	-4%	3%
	7月～9月	-18%	-15%	-27%	1%	-4%	-5%	-6%	-11%
	10月～12月	-21%	-34%	-38%	3%	-11%	-18%	-46%	-24%
2009年	1月～3月	-10%	-3%	10%	-1%	6%	12%	-20%	-1%
	4月～6月	20%	18%	32%	0.3%	1%	7%	22%	14%
	7月～9月	-2%	11%	13%	1%	-2%	3%	22%	6%
	10月～12月	-0.2%	8%	12%	0.5%	3%	5%	8%	5%
2010年	1月～3月	8%	4%	4%	-0.1%	-1%	5%	4%	3%

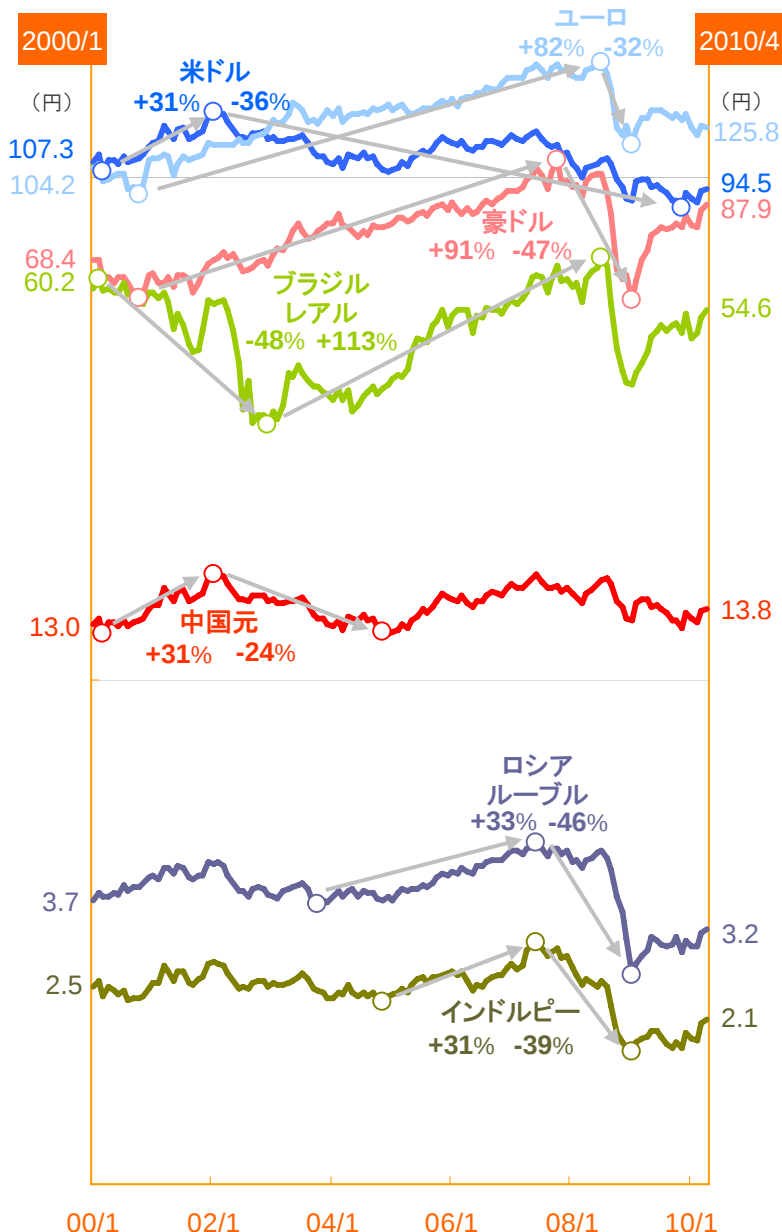
期間:2004年12月末～2010年3月末 ※「1月～3月」は前年12月末から3月末までの騰落率を示す。※「すべてに分散」は均等分散。 日本株式:TOPIX、海外株式:MSCI kokusai(円ベース)、新興国株式:MSCIエマージング・マーケット・インデックス(円ベース)、日本国債:シティグループ日本国債インデックス、海外債券:シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)、新興国債券:JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(ヘッジなし・円ベース)、世界REIT:S&PグローバルREIT指数(円ベース) 上記データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものでもありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

2 為替も要注意 避けたい「ひとつの通貨への賭け」

昨年来の「売れ筋ファンド」の中には、高い分配金や成長魅力がある一方、その裏にある為替変動リスクが気になるものも少なくありません。いうまでもなく、投資成果は右図のように投資資産の値動きと為替の値動きの合計です。せっかくの投資資産のリターンを為替が足をひっぱる状況は避けなければなりません。

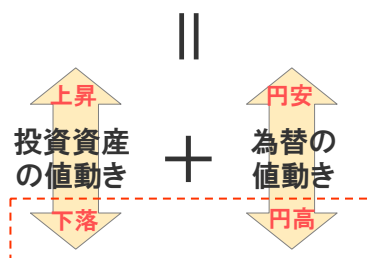
■ 対円為替レートの最大上昇率・最大下落率



期間: 2000年1月末～2010年4月末 ※対数目盛り

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。上記データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

外国資産に投資する
ファンドの収益



資産も為替も足を引っ張る
“ダブルパンチ”状態

左図は計測期間の中での、各通貨の最大上昇率と下落率を示したものです。

通貨によってそれに要した期間はマチマチ。米ドルが数年かけて36%下落したのが最大だったのに対し、ユーロは6カ月で32%下落したのが最大でした。

しかし、どの通貨もこの10年間の間に最大で20%から50%程度の下落を経験しています。通貨は“意外と動く”という認識を新たにすることが必要かもしれません。

常に意識しておきたい 3つの分散

Nikko AM Fund Academy Basic

3つの分散

『通貨の分散』・『資産の分散』・『買付時期の分散』

『通貨(為替)も分散』が基本

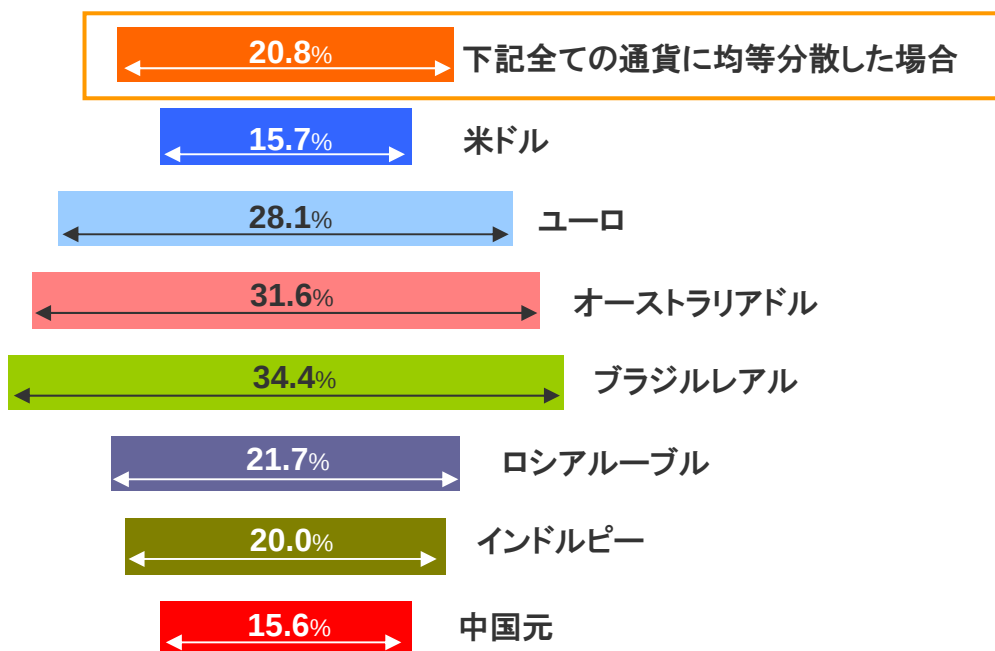
多くのファンドにとって、為替変動リスクは避けられない場合が多いでしょう。もちろん為替も収益源のひとつと考える積極的な付き合い方もありますが、一般的には海外の株式や債券などへの投資に必然的に付いてくる「付随リスク」と認識するのが良いでしょう。

その場合はやはり『通貨(為替)も分散』が基本。とくに成長真っ只中の国の通貨は、為替変動が大きい傾向があります。もちろん為替には「国の株価」の側面もあり、経済成長と共に為替が強くなるという期待もありますが、それはかなり長い目で見た場合の話。

通常のファンド投資の期間なら、為替変動には「通貨も分散」で備えておきたいところです。

■ 意外とブレ幅の大きい為替

最も上昇した月と下落した月の変化率を単純に足してみると...



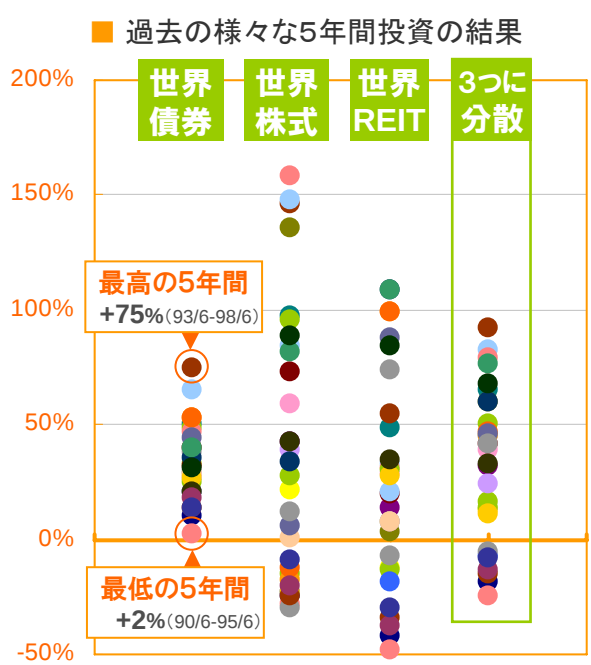
期間:2000年1月末～2010年4月末 ※各通貨の対円レートにつき、最も上昇した月の変化率と最も下落した月の変化率を足し合わせたもの。
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。上記データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

『資産の分散』だけでなく『買付時期の分散』も重要

古くからいわれる通り『資産の分散』は基本です。しかしそれで全ては解決しません。右図はスタート時期の異なる5年投資の様々な結果ですが、やはり「いつスタートするか」に投資成果が左右されてしまう側面があるのも事実なのです。

結果的に最良の投資環境の5年間に当たれば、世界国債への投資でも75%のプラスでしたが、たまたま芳しくない5年間だったなら、5年でわずか2%なのです。

だからこそ一度に買わない『買付時期の分散』は重要であり、同時にグラフ右端の『資産の分散』も欠かせません。つまりこの2つは、投資環境の“運・不運”に左右されてしまう度合いを、できるだけ減らすための重要な戦略だと考えることができます。



計測期間:1989年12月末～2010年4月末 ※1989年12月末を初回に、毎年6月と12月末を起点とした5年間保有の結果をプロットしたもの。世界債券:シティグループ世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)、世界株式:MSCIワールド・インデックス(円ベース)、世界REIT:S&PグローバルREIT指数(円ベース)
上記データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

上がってきた今、“前向きな買い増し”の意味をもつ『買付時期の分散』

下落時の買い増しは、平均価額を下げて上昇を待つ“守りの買い増し”でした。今、もし保有ファンドが値上がりしているなら、「前に買っておいただおかげで、新規で買う人(下表:12,000)よりも実質的に安く買える(同:10,909)のだ」と、“攻めの買い増し”のように考えることはできないでしょうか。

もちろん安い時に一度で買うのがベストです。しかし買った後に下がるか上がるかが分からない以上、守りと攻めの双方から『買付時期の分散』と理解しておくことは重要です。

既存と同額		新規の買い増し水準							
		7,000	8,000	9,000	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000
既存の買い付け水準	14,000	9,333	10,182	10,957	11,667	12,320	12,923	13,481	14,000
	13,000	9,100	9,905	10,636	11,304	11,917	12,480	13,000	13,481
	12,000	8,842	9,600	10,286	10,909	11,478	12,000	12,480	12,923
	11,000	8,556	9,263	9,900	10,476	11,000	11,478	11,917	12,320
	10,000	8,235	8,889	9,474	10,000	10,476	10,909	11,304	11,667
	9,000	7,875	8,471	9,000	9,474	9,900	10,286	10,636	10,957
	8,000	7,467	8,000	8,471	8,889	9,263	9,600	9,905	10,182
	7,000	7,000	7,467	7,875	8,235	8,556	8,842	9,100	9,333
	6,000	6,462	6,857	7,200	7,500	7,765	8,000	8,211	8,400

あくまでも簡易計算によるシミュレーションです。買付時の手数料等を考慮していません。取得できる口数を元にして計算しているため、同額の場合の平均取得額は単純平均とは異なります(より低い基準価額で同額を買付けると、より多くの口数を取得するため)。現水準での「買い増し」を全ての方に推奨するものではありません。全体資産に占める投資信託の割合が過度にならないかなど、期待されるメリットとリスクの双方の観点からお客様自身で検討されることが重要です。

持っておきたいコンセプト “メイン+トッピング”

Nikko AM Fund Academy Basic

もしかしたら「分散投資の重要性」など聞き飽きたという人も多いかもしれません。求められているのは、実際に個人の投資戦略に落とし込むための、シンプルなガイドラインなのでしょう。

まずは金融資産全体を『3つのポケット』に

預貯金も含めた金融資産全体での分散が最初のステップです。これは日興アセットマネジメントがずっと提唱してきた『3つのポケット』という考え方でも十分です。

ここで大切なのは、十分な『貯蓄ポケット』を持っているかどうかの確認(不十分なら投資はきっと時期尚早)と『資産形成ポケット』と『トレーディングポケット』の区別です。



これは必須。
生活の基盤をつくり、
「安心」を確保するための
ポケット



今後ますます重要に。
少し先を考えて、
お金を「育てる」ための
ポケット



これはなくても構わない。
余裕資金で機動的に
運用を楽しむための
ポケット

次に求められるコンセプト“メイン+トッピング”

『資産形成ポケット』の中身を考えるにあたり提案したいのが“メイン+トッピング”というコンセプト。

ラーメンやアイスクリームのトッピングは、いうまでもなくそれぞれを引き立てるための脇役です。にぎり寿司のワサビもそうかもしれません。シャリやネタを捨てたり小さくして、ワサビだけを盛ったものを、誰もお寿司とは呼ばないでしょう。

ファンドによる資産形成においても、そのファンドがメインなのかトッピングなのかという「役割分担」とトッピングの「分量調整」を意識することが大切なのではないのでしょうか。



『役割分担』と『分量調整』

日本国内に約3,500本もあるファンドも、実は下の[Step1]の図のように分類できます。その確認を行なった上で、それぞれが“メイン”なのか“トッピング”なのかを考えてみると良いでしょう。

一般的には、メインには投資資産や国(地域)が分散された組み合わせを、トッピングは今が旬なテーマ性のものをスパイス的に適度に加えるという考え方が分かりやすいでしょう。

たとえば、先進国のバランスファンドをメインに新興国債券をトッピングしたり、通貨分散された債券ファンドをメインに、今年をあえて日本株式やJ-REITをトッピングするなど、自らの資産状況や今後の大きなマーケット観から、色々な組み合わせが考えられそうです。

Step1 保有ファンドをマッピングしてみる

	国内	先進国	新興国
株式			
債券			
REIT			

左図の「ファンド分類マップ」で投資済みのカテゴリー、あるいは抜けているカテゴリーを確認します。

バランスファンドの場合は、あらためて投資方針を確認するチャンス。「このファンドを通じて、何に何%投資しているのか？」を調べます。

またそれぞれの「通貨は何か？」もあわせて確認しましょう。



Step2 『メイン+トッピング』で“仕分け”をする



次に[先進国・債券]や[新興国・株式]などの各パーツが、自分の『資産形成ポケット』の中でメインなのかトッピングなのか、そして分量(金額)が全体のバランスの中で適当かどうかを考えます。

ひとりで難しい場合は、金融機関のアドバイザーの方と一緒に考えると良いでしょう。それぞれの資産の現状と今後についての説明を受けながら、ファンド資産の“仕分け”をすることで、今までいわれてきた「分散投資」や「ポートフォリオ」という言葉を、より具体的に理解できるようになるはずです。

nikko am fund academy

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものでもありません。

□投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご不明な点、気になる点などがありましたら、
ぜひ日興AMコールセンターまでお問合せください。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00

